



平成31年3月20日

各位

会社名 株式会社石井表記
 代表者名 代表取締役 石井 峯夫
 (コード番号 6336 東証第2部)
 問合せ先 常務取締役 渡邊 伸樹
 管理本部長
 (TEL 084-960-1247)

特別損失および平成31年1月期通期業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成31年1月期連結会計年度(平成30年2月1日～平成31年1月31日)において、平成30年9月13日に公表いたしました平成31年1月期通期の業績予想値と、本日開示の平成31年1月期通期実績値に差異が生じたので、その概要をお知らせするとともに、特別損失および法人税等調整額の計上について、下記のとおりお知らせいたします。

なお、期末配当金につきましては、売上高、経常利益ともに順調に推移しており、直近に公表しております配当予想(期末配当5円)から変更はありません。

記

1. 平成31年1月期通期業績予想値と実績値の差異

(1) 連結(平成30年2月1日～平成31年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 12,922	百万円 1,146	百万円 1,110	百万円 899	円 銭 110.38
実績値(B)	13,191	1,456	1,464	1,056	129.54
増減額(B-A)	268	309	353	156	—
増減率(%)	2.1	27.0	31.9	17.4	—
(ご参考)前期実績 (平成30年1月期)	12,852	1,271	1,279	1,216	149.24

(2) 個別(平成30年2月1日～平成31年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 8,953	百万円 952	百万円 932	百万円 774	円 銭 94.98
実績値(B)	9,005	1,128	1,140	700	85.86
増減額(B-A)	52	176	208	△74	—
増減率(%)	0.6	18.5	22.4	△9.6	—
(ご参考)前期実績 (平成30年1月期)	8,911	1,064	1,129	1,149	141.00

2. 差異の理由

以下の理由により、前回予想（平成 30 年 9 月 13 日公表）の平成 31 年 1 月期通期業績予想値と、本日公表の平成 31 年 1 月期通期実績値に差異が生じるものであります。

（1）営業利益

① 個別

当社におけるディスプレイおよび電子部品においては、半導体市場等の好調に牽引され、工作機械および産業用機械分野の製品販売が好調に推移し、売上高が前回予想を上回りました。

また、電子機器部品製造装置におけるプリント基板分野では、継続的な原価低減活動の成果が想定を上回ったこと、液晶関連装置であるインクジェットコーターのコストが想定を下回り収益性が向上したことなどから、当社の営業利益が前回予想を上回りました。

② 連結

当社の営業利益が前回予想を上回ったことに加え、JPN, INC. では利益率の良いラベル印刷製品の販売が想定を上回って推移したこと、上海賽路客電子有限公司についても原価低減活動の成果が想定を上回ったことから、当社グループの営業利益が前回予想を上回りました。

（2）経常利益

営業利益が改善したことに伴い、個別、連結とも経常利益が前回予想を上回りました。

（3）当期純利益

① 個別

経常利益が前回予想を上回りましたが、特別損失として、関係会社株式評価損および関係会社貸倒引当金繰入額、債務保証損失引当金繰入額を計上し、繰延税金資産の一部を取崩したことなどから、当期純利益は前回予想を下回りました。

（ア）関係会社株式評価損（特別損失）の内容

当社はフレキシブル基板向け装置を製品ラインナップに加え、プリント基板向け製造装置事業の拡大を図ることを目的に株式会社CAPを平成 28 年 8 月に子会社化いたしました。しかしながら新規顧客への参入に想定以上の時間を要したことなどから、当初の事業計画の進捗が遅れ、当事業年度末には同社株式の実質価額が帳簿価額より著しく下落したことから、関係会社株式評価損を 1 億 40 百万円計上いたしました。

（イ）関係会社貸倒引当金繰入額（特別損失）および債務保証損失引当金繰入額（特別損失）の内容

上記記載の通り株式会社CAPの財政状態等を検討した結果、将来の損失負担に備えるため関係会社貸倒引当金繰入額を 30 百万円、債務保証損失引当金繰入額を 38 百万円計上いたしました。

（ウ）繰延税金資産の取り崩し（法人税等調整額）の内容

今後の業績見通し等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、繰延税金資産の一部を取り崩すこととなり、法人税等調整額を 1 億 20 百万円計上いたしました。

② 連結

特別損失としてののれんの減損損失を計上いたしましたが、経常利益段階の増益額が大きく、当期純利益も前回予想を上回りました。なお、個別決算で計上した関係会社株式評価損、関係会社貸倒引当金繰入額、債務保証損失引当金繰入額は連結財務諸表上消去されるため連結業績への影響はありません。

(ア) のれんの減損損失（特別損失）の内容

株式会社CAPの業績が当初想定を下回っていることから、同社株式取得時に発生したのれんについて今後の回収可能性を検討した結果、当該資産の帳簿価額全額 60 百万円を減損損失として計上することといたしました。

以 上